

『商品』に寄せられる共感を 『取り組み』への共感につなぐ

「ともに つくる くらしと地域」 2020ビジョンの実現に向けて

パルシステム東京は2020ビジョンの実現に向けて、中長期の計画を立てて事業と活動を進めています。

2020年を3年後に控えた今、とくに取り組むべき課題について整理します。

組合員の平均年齢上昇に歯止めを

パルシステムは「安心安全な商品が欲しい」という組合員の願いを叶えるために、産直運動や環境に配慮した商品づくりを進めてきました。組合員からの支持と利用が広がった結果、日本の農畜産業を守り、豊かな自然環境を守り、地域社会の発展にも貢献してきました。

現在、46万人いる組合員の平均年齢は53.3歳。2年前の調査と比べ3歳引き上がったことから、若年層の利用と定着が課題となっています。スマートフォンが普及し、買い物チャンネルが増える中、若年層から支持され続けるためには、常に進化が求められる時代。事業と活動の両面において、とくに20～30代の組合員ニーズを満たせるよう、さまざまな施策を遂行していかなければなりません。

商品の利用は「社会をつくる運動」

「パルシステムの商品の良さ」への共感を、どのように「パルシステム東京のさまざまな取り組み」への共感につなげられるか、ということも大きな課題と言えます。

パルシステム商品の物語を知る。生産者との交流で買い支えの大切さを学ぶ。商品を知る仲間同士で協同の輪を広げる。学び、行動する組合員を増やすため、さまざまな立場や世代の組合員が生協の活動に参加しやすい仕組みを構築していく必要があります。

次世代を担う職員の育成においても、多様な考えを尊重しお互いを認め合う組織風土を守り、一人ひとりが学べる場を増やし、ビジョンの実現をめざしていきます。



生活協同組合 パルシステム東京
専務理事 辻 正一